

ニュース JAFIC EYE №156

7月のマイワシとさば類の漁況について

1. 太平洋側のマイワシについて

○根室市花咲港：さけます代替棒受網漁業の漁場は、花咲南沖で漁場水温は11～17℃前後であった。7月の水揚量は6月を上回ったものの、前年を下回った(前年比37%) (表1)。7月上中旬は体長17～18cm主体に20cm以上、体重70～80g主体に100g以上を漁獲したが、7月下旬には20cm以上、100g以上の大羽サイズの割合が減り、16～18cm、50～60g主体となった(図1)。

表1. 花咲港における6、7月のマイワシの水揚量(トン)と平均価格(円/kg)

	2019年		2020年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
6月	1,925.3	55.0	968.3	31.0	0.50	0.56
7月	5,383.8	33.0	2,001.6	68.0	0.37	2.06

(以降水揚量出典:おさかなひろば)

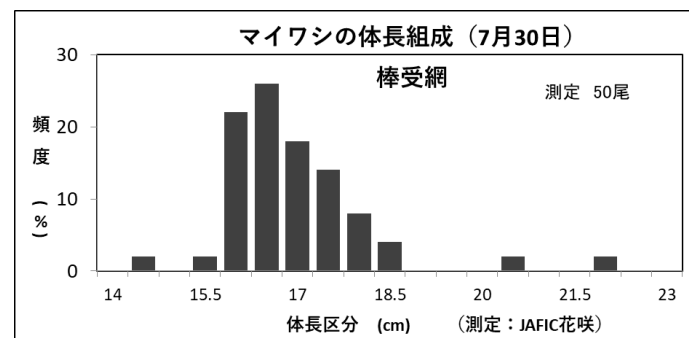


図1. 7月30日花咲港水揚のマイワシ体長組成

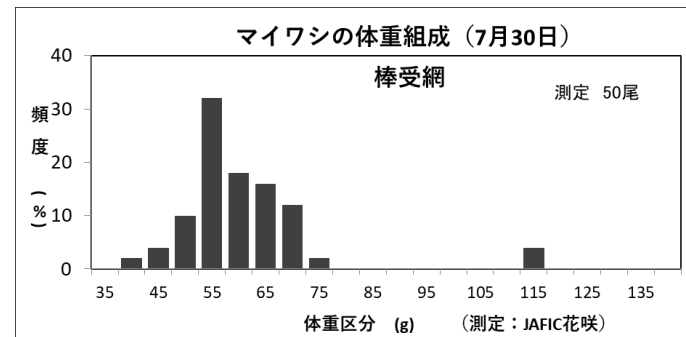


図2. 7月30日花咲港水揚のマイワシ体重組成

○釧路港：まき網による7月の水揚量は54,074.4トン(前年比3.2倍)、1網あたりでは136.5トンであった。漁場は釧路港灯台南東46海里～東54海里であり、釧路沖から落石沖まで広がっており、7月下旬にかけて漁場は東よりになった。

○石巻港：7月の水揚量は6月並で前年を上回った(前年比107%) (表2)。まき網による漁獲が主であった。まき網漁場は、金華山沖～釜石沖を中心に八戸沖や銚子沖にも形成された。漁場水温は14～21℃であった。体長15～16cm、体重45～50g主体。6月から水揚物の組成に変化はなかった(図3、4)。

表2. 石巻港における6、7月のマイワシの水揚量(トン)と平均価格(円/kg)

	2019年		2020年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
6月	4,149.0	40.0	7,171.7	34.0	1.73	0.85
7月	6,597.3	47.0	7,032.5	36.0	1.07	0.77

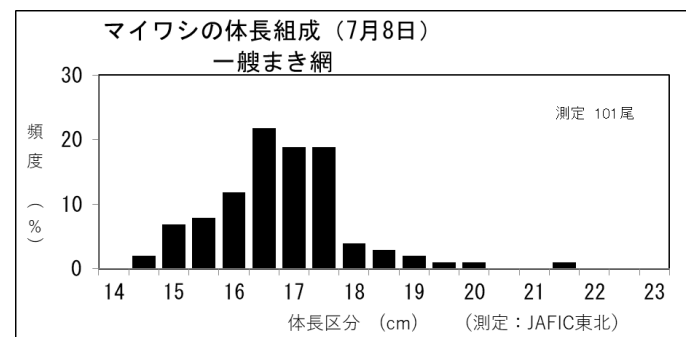


図3. 7月8日石巻港水揚のマイワシ体長組成

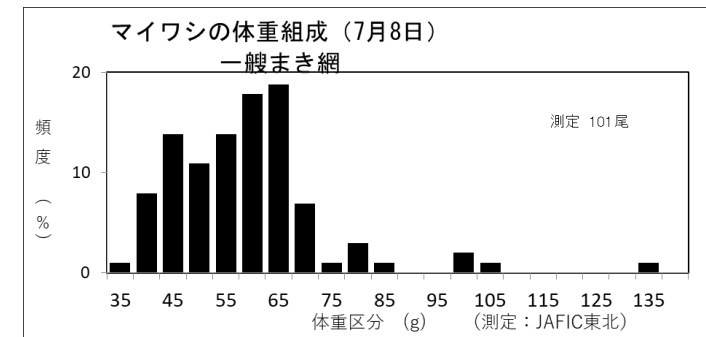


図4. 7月8日石巻港水揚のマイワシ体重組成

○銚子港：7月の水揚量は6月を下回るとともに、前年を下回った(前年比35%) (表3)。一艘まき網による水揚が減り、二艘まき網による水揚が主であった。水揚量が少なかったため、価格は6月を上回るとともに、前年を上回った。

表3. 銚子港における6、7月のマイワシ水揚量(トン)と平均価格(円/kg)

	2019年		2020年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
6月	26,303.2	54.0	15,893.2	71.0	0.60	1.31
7月	7,499.7	79.0	2,658.4	117.0	0.35	1.48

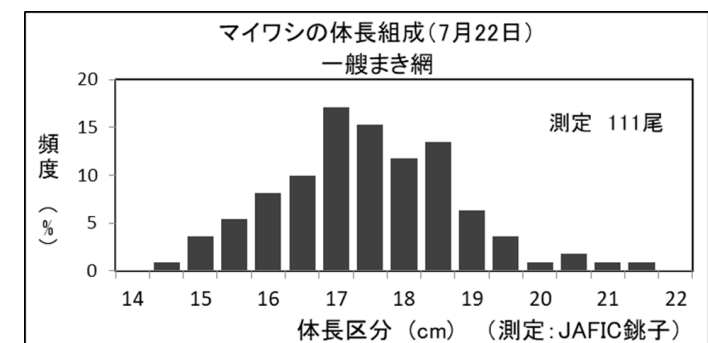


図5. 7月22日銚子港水揚のマイワシ体長組成

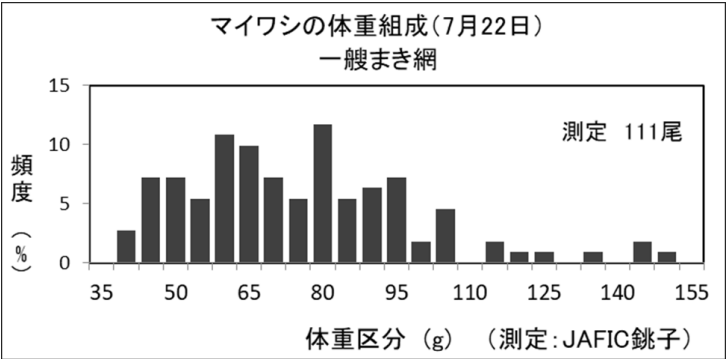


図 6. 7 月 22 日銚子港水揚のマイワシ体重組成

2. 日本海側のマイワシについて

○境港：7 月の水揚量は 6 月を下回ったものの、前年を上回った(表 4) (前年水揚げナシ)。漁場は隠岐海峡周辺、浜田港沖であった。漁模様は 6 月に引き続き好調で、マイワシに加えてカタクチイワシも好調であった。魚体については 6 月下旬同様に 9～10cm で小羽主体であった。

表 4. 境港における 6、7 月のマイワシの水揚量(トン)と平均価格(円/kg)

	2019年		2020年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
6月	1,010.0	40.0	2,712.0	44.0	2.69	1.10
7月	0.0	0.0	2,679.0	62.0	—	—

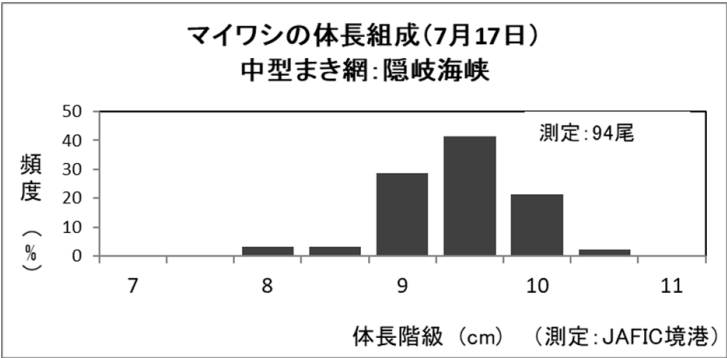


図 7. 7 月 17 日境港水揚のマイワシ体長組成

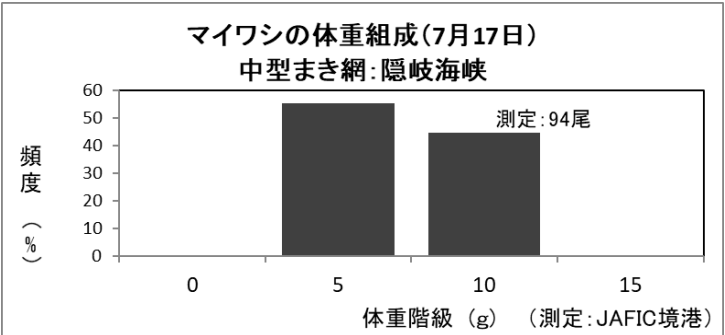


図 8. 7 月 17 日境港水揚のマイワシ体重組成

3. 太平洋側のさば類について

○石巻港：7 月の水揚量は 6 月を下回ったものの、前年を上回った(前年比 2.04 倍) (表 5)。まき網による水揚はなく、定置網と底曳網での水揚が主体だった。6 月とは異なり、体長(尾又長)34cm 前後が主体であった(図 9)。

表 5. 石巻港におけるさば類の水揚量と平均価格(円/kg)

	2019年		2020年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
6月	3,753.6	54.0	4,155.0	72.0	1.11	1.33
7月	672.6	125.0	1,374.4	99.0	2.04	0.79

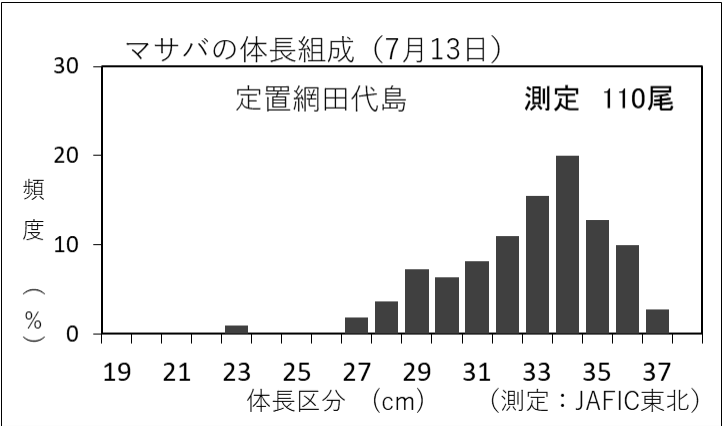


図 9. 7 月 13 日石巻港水揚のさば類体長組成

○銚子港：7 月の水揚量は 6 月を下回ったものの、前年を上回った(前年比 1.43 倍) (表 6)。銚子沖で一艘まき網、二艘まき網で水揚げがあった。

表 6. 銚子港におけるさば類の水揚量と平均価格(円/kg)

	2019年		2020年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
6月	181.3	87.0	953.2	96.0	5.26	1.10
7月	323.1	98.0	460.9	99.0	1.43	1.01

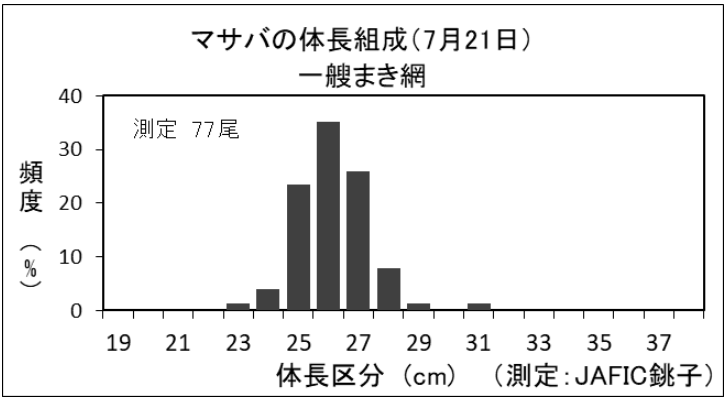


図 10. 7 月 21 日銚子港水揚のマサバ体長組成

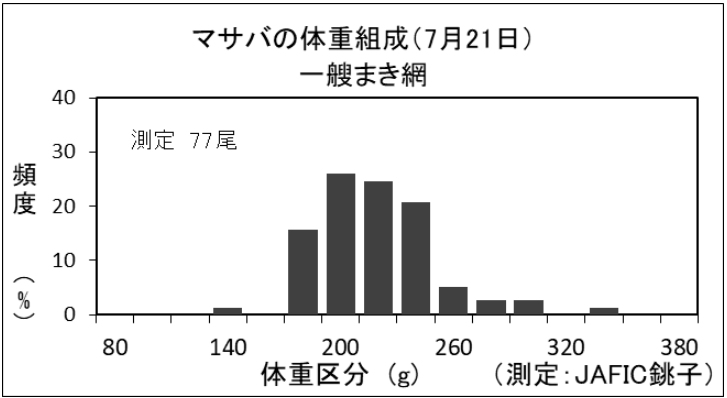


図 11. 7 月 21 日銚子水揚のマサバ体重組成

4. 日本海および東シナ海側のマサバについて

松浦港：7月の水揚量は6月を下回ったものの、前年を上回った(前年比 1.83 倍) (表 7)。6 月同様に対馬海域北部主体の操業で東シナ海南部でも操業があった。マサバの体長(尾叉長)は6月には見られなかった 23～25cm モードで、体重は 140g モードであり、30cm 台はあまり見られなかった(図 12、13)。

表 7. 松浦港におけるマサバの水揚量と平均価格(円/kg)

	2019年		2020年		前年比	
	数量	価格	数量	価格	数量	価格
6月	281.9	153.0	1,287.4	95.0	4.57	0.62
7月	199.6	179.0	365.9	134.0	1.83	0.75

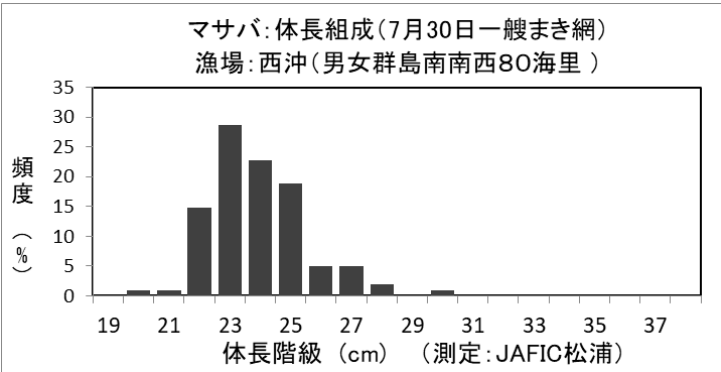


図 12. 7 月 30 日松浦港水揚のマサバ体長組成

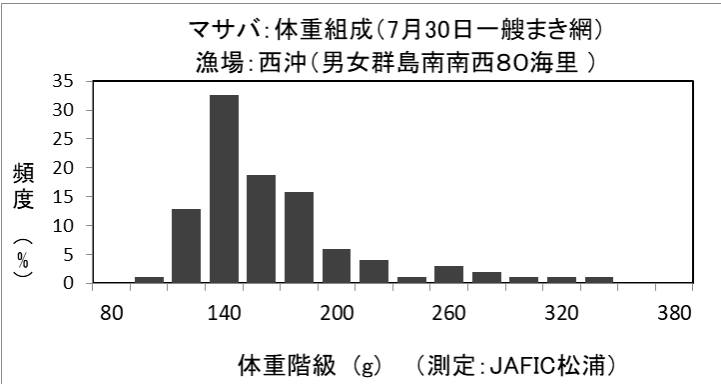


図 13. 7 月 30 日松浦港水揚のマサバ体重組成

5. まとめ

太平洋側のマイワシは花咲沖で操業した棒受網漁業では、7月上旬中に体長 17～18cm 主体に 20cm 以上のサイズが見られたが、7月下旬には 16～18cm の 1、2 歳魚主体になった。7 月を通して金華山沖～八戸沖のまき網では体長 16～18cm の 1、2 歳魚が見られた。これらのことから、7 月上旬中旬に花咲沖で漁獲されていた体長 20cm 以上の大型のマイワシは、道東沖の水温の上昇に伴って花咲沖よりさらに北上し、漁獲の主対象から外れたものと考えられる。8 月に入り、東北沖のまき網は、さば類・スルメイカ主体の操業になった。マイワシについては 7 月に東北沖に分布していた群れが道東沖に北上し、さらに道東沖の水温が低下すると、北から東沖に南下する群れが加わることから、8 月下旬以降、道東まき網で水揚げされることを期待したい。太平洋側のさば類は東北海域における定置網や底曳網、銚子沖の一艘まき網・二艘まき網で水揚げがあった。石巻では定置網や底曳網での水揚げが主体であり、体長は 32cm 前後が主体であった。銚子沖のまき網での水揚げ物は体長 26cm 前後主体、体重 200g 前後主体であった。

中西部日本海においては、5・6 月から引き続きマイワシの漁獲が好調に推移している。7 月は小羽イワシ主体であったが、輸出向けの加工原料として需要があり、値段も高めだった。6 月に低調だったマアジの水揚げは6月を上回るとともに、前年を上回った(前年比 1.13 倍)

対馬海域を中心にマサバ、マアジが漁獲され、水揚げ量はマサバは前年を上回ったが、マアジは前年を下回った。

(水産情報部)